



# CANOA だより 48

2011年10月発行

文・写真\_鈴木真由美 編集\_橋口博幸 発行\_ブラジル事務局  
Praia do Esteveao s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP: 62800-000

## 長

い日本滞在を終え、カノアに戻ってきました。日本滞在中多くの方から「大丈夫？」と励ましの言葉をかけていただきました。みなさまの優しさに、深く感謝しております。日本帰国前に出した号外で、「その反面、私自身は精神的にかなり疲れてきており、昨年末にはカノアを離れたいという願望を強く抱くようになってしまいました。」と書かせていただきました。その言葉を皆さんが受け止めてくださっていることを実感し、「一人ではない。こんなにたくさんの人たちが支えてくれているんだ。」と、強く感じることもできました。

「光の子どもたちの会」も新たな局面を迎えており、今までの現地の活動を安定させていくことが最重要課題でしたが、今後はカノアの元ボランティアや忙しい中でも活動に携わってくれているスタッフのみんなと一緒に、日本のNGOとしての組織強化を念頭に活動していきたいと思っています。日本においても、それぞれの専門性や特技をいかし、日本国内や現地の活動を支えつつ、さらには事業を一緒に担っていくこともできる。そんな人材の育成や、スタッフや会員の皆様との顔の見える関係を築いていくことができたらと願っています。どうかこれからも「光の子どもたちの会」をよろしく願っています。

## 先

日、「XIV Regata de Jangada do Esteveao」が開催されました。私たちの活動の柱のひとつには、「伝統文化の伝承」というのがあります。主には「ラビリント」という刺繍(皆様は物品販売などでお目にかかっているかもしれません)の製作・販売を行なっているのですが、ここは漁村。やはり「Jangada (ジャンガダー)」という漁船(帆船)もこの村にはなくてはならないものの一つでしょう。そうした中、漁師のための、漁師によるお祭りである「Regata」は、僅かなサポートしかできないかもしれないのですが、私たちが応援していきたい村の伝統文化の一つです。そして今回も帆の提供をし、その船が(実は私の娘たちの船で「ポニヨ号」というのですが)八年連続優勝という快挙を成し遂げました!! できることから少しずつ。この村と一緒に、住民たちと共に、これからも一歩一歩、歩んでいきたいと考えています。



## イベント告知

### ⑤ ブラジル音楽を聴いて歌って踊ろう

「光の子どもたちの会」日本事務局スタッフ企画・主催で、プロのミュージシャンによるブラジル音楽講座を開催します。この機会にブラジルで有名なあの曲を歌えるようになりませんか? 食べて歌って、飲んで踊れる、そんな楽しい一日を一緒に過ごしましょう。

日時 十一月二十日(日) 時間未定(夕方)

場所 ブラリアンレストラン&ライブバー

「コパカバーナ」

横浜市中区住吉町328新井ビル1F

参加費 四千〜五千円

(シユハスコ&飲み放題付き、カノアへの寄付金込)

参加申し込み [nq31786@nifty.com](mailto:nq31786@nifty.com) (担当:川原翼)

## 予告

### カノア大同窓会

カノアに行ったことのある人全員集合!

カノアの思い出をみんなで語り合います。

日程 平成二十四年一月頃

場所 未定

### ブラジル料理教室

以前も講師を務めて下さった、ファビアーナさんに家庭でできるブラジル料理を教えてください。

日程 平成二十三年十二月または平成二十四年一月以降

場所 未定

今年も第六回目となるブラジル・フェスティバルが代々木公園にて開催されました。東電原発事故の影響による節電対策で、木・金が休業、土・日に就労するブラジル人が多くいるとの配慮があり、例年よりも一日多い九月二日(金)三日(土)四日(日)の三日間で予定されましたが、大型台風の影響を心配し二日(金)は中止に。週末は時折折風が吹き雨がパラついたものの概ね晴天で、大勢のブラジル人、日本人で大賑わいとなりました。会場のブラジル人達は Deus eh Brasileiro と言ったとか。(名古屋でも同様のイベントが企画されていましたが、台風の影響が強く中止となってしまいました。)

主催は在日ブラジル商業会議所で、大使館をはじめブラジル銀行やTV、航空会社などの企業ブースが立ち並びます。TAMがバッチや絵葉書を配れば、サンパウロ便を始めたトルコ航空はなんとエアチケットのプレゼント(抽選で各日一名)。東日本大地震の被災地への支援を行う日系ブラジル人NPOのブースでは活動の様子を写真展示していました。

物販コーナーではブラジル製のピキニやサンダル、CD・DVDにお菓子やコーヒーなどのセール中。そしてお目当ての飲食ブース、メニューはこんな感じ:お祭りにつきもののエスベチーニョ、パステル、コシーニャetc、しっかりと食べたい人向けにはシユハスコ、フェイジョアーダにムケッカ、デザートにはアサイ

やマンゴーのシャーベット!!珍しいところではピラルクのムケッカやパラ地方料理などもありました。どれも魅力的!目移りしてウロウロ歩いていると、何人もの友人知人とすれ違います。再会を喜び近況報告を交わすのも、この日の楽しみ。レジャーシートを持って遠方からやってくるブラジル人もたくさんいます。Japaneseをナンパしているブラジル人のお兄ちゃんも。会場内ではあちこちでカポエイラやサンバの輪が見られ、踊る人、叩く人、歌う人、見物の人人人…。皆、思い思いに楽しんでいます。

屋外ステージでは、恒例のミス・コンの他、ブラジルから招聘されたアーティストが登場。今年のメイン・アクト(三日)はアナ・マリア・ブラガ&オウムのロウロ・ジョゼ、そしてポップロックバンドのブリッツでした。陽が傾くにつれステージ前にはどんだん人が集まり始め、夕方五時にアナ・マリア・ブラガが登場すると盛り上がりは最高潮に!さすがの貫禄でした。この時、恐らくブラジル人率95%ぐらいだったんじゃないでしょうか。80年代から活躍するブリッツも幅広い年代に人気で、普段ブラジルのポップロックは聴かないはずの日本人の友人も楽しんでいました。

ブラジル・フェスティバルは九月七日の独立記念日を祝うために始まったものなので、例年九月の第一週目の週末に行われます。皆さんもぜひ来年のスケジュールに入れておいてくださいね!

\*実は、この原稿を書いてくださった、くみさんのご主人で西荻窪 Aparecida 店主の WILLIE WHOPPER さんが、「第一回ブラジリアン・インターナショナル・プレス・アワード・ジャパンの音楽部門を受賞されました!!おめでと〜ございませう。」



ブラジル料理の店が立ち並び



盛り上がる屋外ステージ

## 物品販売の一部を義援金として 被災地に寄付しました

2011年3月11日に起こった「東北地方太平洋沖地震」では、多くの方が亡くなり、被災されました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、私たちに一体何ができるだろうか。それを考え続けていました。そこで、わずかではありますが、現地で製作している物品の日本での売上の10%を義援金として寄付させていただくことにしました。私たちの団体設立時の大きなスローガンは「子どもが子どもらしく、幸せな子ども時代を過ごすためには？」でした。そのため、今回も被災地の子ども達を応援することを目的とし、下記の団体に寄付させていただきました。

子ども環境学会	2,500円
エデュカーレ義援金ポスト	2,030円

## カノアの子どもたちの絵展示会

『ブラジル東北部の小さな漁村「エステーヴァン村」から日本へ』と題して、2011年7月13日～8月5日まで、JICA 横浜ギャラリー 2Fにおいて、展示会が開催されました。この展示会は、「ブラジルという地球の反対側に住む子どもたちですが、今回の震災を知り、子どもたちから、“何もできないが、せめて元気と笑顔を届けたい”との願いを受け、私たちに託してくれた絵。その絵とメッセージを一人でも多くの方々に伝え、元気と笑顔を日本中に届けること」を目的として行われました。このために団体のポスターを制作したのですが、このポスターも好評だったようです。忙しい中作成に携わってくれた橋口博幸くん、本当にありがとうございました!!そして、「一つ一つの絵に関して丁寧にチャプターで説明があったので、子どもたちをより近くに感じる事ができた」などの感想も寄せられました。今後もこうした展示会を積極的に開催していきたいと思っていますので、展示会に行かれたみなさまからの感想や、ご意見、アイデアなどありましたら日本事務局までよろしく願います。

## ベビーキルトの会との活動協力

ABCキルト“Aids or/At-risk Baby Crib Quilt”という、1988年アメリカから始まったこの活動があります。この活動は、エイズや麻薬の影響を受けた小さな子ども達を思い、世界にはリスクを背負って生まれてきた大勢の赤ちゃんを支えるために続けられてきました。残念ながらこの活動は終止符が打たれ、その後、こうした問題だけではなく、様々な事情で母子ともに勇気や力を必要としている人達に「ベビーキルト」を送ろうと、趣旨を少し変えて活動を継続している団体が日本国内にいくつも存在しています。そんな中、現在「光の子どもたちの会」の理事でもある、助産師の小林美香さんが続けられてきていたブラジルに送るキルトの活動を、私たちが引き継ぐこととなりました。私が日本滞在中にはベビーキルトかわさき、ベビーキルト野の会、ベビーキルトなのはな、上村春子さんにお会いし、カノアの現状についての報告と、今までキルトを渡した子どもたちの紹介をさせていただきました。そして、今後どのように、誰を対象にお渡ししていくのいいのかわかを皆さんの意見を聞き、これからの活動を一緒に行なっていくことを承諾していただきました。上記に挙げた団体の他、エイトポイントスターを含めた4団体と上村さんが作成されたキルトをカノアを中心として、届けていきたいと思っています。本当に素敵で、温もりのあるキルト。このキルトを受け取ることで、一人でも多くの母親、子どもが勇気や力をもらい、元気に育っていつてくれることを願っています。

\*ベビーキルトの会にご興味のある方は日本事務局までご連絡いただけますよう、お願い致します。

音楽プロジェクト：

## MUSIC FOR CANOA!!

前回のお便りで「音楽プロジェクトへの寄付」及び、「いらなくなった楽器の募集」を行いました。事務局に届きましたリコーダー等は無事にカノアに届けられ、音楽の授業で使用しています。みなさまからの温かいご支援、本当にありがとうございました。また、2011年8月27日まで活動していたドイツ人ボランティアのAngelikaを通して、ドイツから楽器の支援をいただくことができました。新たにプロジェクトに届けられた9つの楽器(トランペット、サクソ、クラリネット、フルート、リコーダー、ギター等)は大切に使用されています。これからも皆様のご支援・ご協力の程、よろしく願います。

## 慶応大学医学部国際医学研究会（IMA）

四回目になりますが、『慶応大学医学部国際医学研究会（IMA）』を現地にお迎えし、今回は“Pedregal（ペドレガウ）”地区を対象とした「学校児童に対する健康診断、ギョウチュウ検査及びその保護者を対象としたシャーガス病及び血糖値の検査」を実施しました。アラカチ市保健局との調整が直前までつかず、教育局（対象地域の公立学校の教職員を含め）とアラカチ市内の私立大学“FVJ”の看護学部の全面協力を経て、設備、機材や備品だけではなく、学生5名も参加して実施されました。ペドレガウ地区はアラカチ市内で『忘れられている地域』と言われている場所であり、現在空港の建設や新興住宅地の建設ラッシュが続く中、川沿いの貧しい地域はそのまま残されて誰も目を向けないという状況があります。今回活動を行なった公立学校の90%以上は生活保護を受けている家庭であり、アラカチ市内のすべてのゴミを一気に引き受けているゴミ置き場がある地域という大きな問題もあります。このゴミ置き場の見学もしたのですが、学校にもいかず、幼い子どもを連れた母親までもがゴミ収集車が来るとその後ろを追いかけ、ゴミをあさる様子は言葉に表すことのできないものがありました。このような地域で行われた活動ですが、学校の教職員をは



じめ、私たちみんなを温かく迎え入れてくれ、本当に充実した活動を行うことができました。今回の活動の中で一つ気になったのが、以前カノアで行われたギョウチュウ検査では100%陽性だったのですが、衛生状況なども含めてカノアよりも劣悪な環境下で暮らしているにもかかわらず、50人以上（正確な数字はまだ出ていない）の中からたった9人だけが陽性だったという事実です。これについては引き続き検証していく必要があると感じています。今後もアラカチ市保健局及び教育局をはじめ、FVJの看護学部が引き続き現地での活動を行ってもらえることを期待しています。

## 味の素およびかながわ国際交流財団の 支援によるプロジェクト

味の素「食と健康」国際協力支援プログラムより、『園庭菜園及び地域で入手可能な食材を利用した子どものための栄養給食プログラム』として2009年4月1日より実施していたプロジェクトですが、2011年3月31日をもって、無事終了しました。2011年2月16～18日には味の素本社並びにブラジル・味の素より2名をお迎えし、プロジェクト対象者や協力者との面談を行いました。2年というのは長いようで短く、その中で十分な成果を残すことは難しいといえます。それでも、面談の中で保護者のみなさまからいただいた言葉、その子どもの様子を涙ながらに話し、感謝の言葉をかけられたとき、本当に今回のプロジェクトを実施できてよかったと心から嬉しく思いました。現在、味の素本社並びにブラジル・味の素から受けた意見やアイデアを受け、新たなプロジェクトを立案しています。この新しいプロジェクトも実施することができるよう、助成が決定するよう、どうか応援してください。

かながわ国際協力財団より、『ブラジル東北部の貧しい漁村における、地域住民への教育支援プロジェクト』として2010年4月1日より実施していた事業ですが、2011年3月31日を持って無事終了いたしました。私たちは幼児教育を中心とした活動を実施し

ていますが、初めての卒園児が今、15歳となっている中、次第に幼児教育から青少年までのアプローチが重要であると感じ始めています。しかし、長期的なケアには経済的な負担が大きく、また、人材の確保が十分に行えていない現状を省みると、すでに行われている既存の保育園及び学童教室を基盤としていくことが必要不可欠であると感じています。子どもの環境を取り巻く状況は年々変化しており、保育園だけでなく、家族も含めた「子育て支援」事業が今後は必要となってくるでしょう。そのための第一歩として、今回のプロジェクトにおいて保育園及び学童教室に通う子どもたちを持つ家庭向けの講座を実施できたことは、地域にとっても大きな一歩を踏み出すきっかけになったと感じることができました。

そして、2011年10月1日より、『ブラジル東北部の貧しい漁村における、青少年を含めた地域住民への地域子育て事業』が開始されます。前回行われたプロジェクトを生かし、2012年9月30日まで実施していく予定です。“KIF NEWS 9月号”にもこれから実施されるプロジェクトが紹介されました。これからもCanoaだよりを通じてプロジェクトの実施状況をお知らせしていく予定ですので、どうぞよろしくご依頼致します。

## 現在活動するボランティアの自己紹介

### 真野 由紀

JICA 日系社会青年ボランティア

七月よりJICAのボランティアとしてこちらに赴任してまいりました。私の任期は二年間で、光の子どもたちの会にとって初めての長期ボランティアの受け入れとなりました。こんなに素晴らしい自然環境の中で活動できることをとても嬉しく思います。ここに来て大変驚いたことは、女子もサッカーが上手で、男子に混ざり対等に戦っていることです。サッカーでは子どもたちに敵いませんが、彼らに少しでも興味の幅を広げてもらい、人として心豊かな大人に成長してもらえよう、お手伝いをしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



### 根村 俊哉

チャレンジ・ブラジルからのボランティア

五月の下旬からボランティアをしている根村俊哉です。僕は日本で千葉県にある神田外語大学でポルトガル語を専攻しており、またブラジルについても勉強していました。今、僕はここで平日の午前中、子どもたちのお世話をし、その中で週に一度ずつ、習字と英語の授業をしています。それ以外では週に二度の日本語教室を開いています。年末まであと少しの滞在期間ですが、より多くの活動をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。



## 子育て日記より

子どもの成長は早いもので、つい先日まで、「ママと一緒に寝ないと寝ない」と言っていた子ども達が、「自分たちの部屋で寝るから」といって、二人で子ども部屋で寝るようになりました。長女は小学校に入ってからやっと、私たちと離れて寝るようになったのですが、おねえちゃんがいるというのは心強いものなのか、次女は日本から戻ってくるとすぐに、「もう三歳だからおねえちゃんと寝るね」と言っていて、二人で寝るようになりました。二人の寝顔を見るために部屋を訪れると、嬉しいのと同時に、なんだか寂しい気持ちがあるのはなぜでしょうか？それでも、二人の寝顔を見ていると心から幸せを感じることができます。

# 一年間の活動を終えて (活動報告より一部抜粋)

アンジェリカ・フレイタグ (ドイツ人ボランティア)

私の家族、友人に、この一年間の私の活動をどう話すのでしょうか。子どもたちに行った活動のこと、村の住民とのこと、ブラジル文化、ブラジル北東部の食べ物のこと……このエステヴァン村での活動を伝えられる言葉が果たして見つかるでしょうか。

(中略)

この一年間、私はいつも裸足で過ごし、風邪を引くこともほとんどなく、世界で一番美しいパラダイスに住んでいました。私は八月にこの村にきましたが、九月に入り、エリアーナとパトリシアの保育園のクラスで働き始めました。そして、ボランティア活動の最後まで、このクラスで過ごしました。子どもたちは、私がここに住ったかのように自然に迎えてくれ、とても気持ちを楽しませてくれました。それが私にとって驚きでもありませんでした。いつも友人の家に行く途中、子どもたちは「チア、アンジェリカ！チア、アンジェリカ！」と呼んでくれるのです。私はこの村の子どもたちにとって、怪しい人ではなく、子どもたちが心から受け入れてくれた一人の人間なんだと感じることができました。

子どもたちと遊び、活動することは好きでしたが、時々彼らの家庭での生活が思うと悲しくなりました。私は時間が空いているときに、エステーヴァン村の若

者たちにドイツ語と英語を週に二回ずつ教え始めました。当初はともうまくいき、彼らは外国語を覚えることに強く興味を持ってくれました。しかし、活動の終わりの頃には、来なくなっていました。私が彼らと呼びに行かなくてはいけませんでした。

六ヶ月後、人と話したり本で勉強したりして、ポルトガル語で話せるようになりました。その為、一月からフラビアーニの学童教室に入り、月曜日にリコーダー、火曜日に英語を教え始めました。同時に、マルシアーナの学童教室でも、火曜日に英語を教えはじめました。そこで行う授業は、私の授業であり、私のアイデアで実践するものだったので、とても嬉しかったです。いつも、たくさん遊びや歌、絵を取り入れた授業を行いました。子どもたちは覚えるのにとっても良い年齢で、英語の授業では、英語を話すことに恥ずかしがることはありませんでした。彼らは私との勉強を楽しんでくれていたのだと思います。

次第に、子どもたちへの教え方が分かるようになり、授業の前に、何をどう教えるのか、授業をどう始めてどう終わるのかを、考えるようになりました。子どもたちは、先生が準備不足だと、すぐに気付いてしまうようになりました。また、この先生たちはみんな良い人達で、彼らと仕事をするのもとても好きでした。異なる人が集まって一緒に活動をする



いうことは様々な頭（知識）、アイデア、スキルを共有できるということであり、それは活動をより良いものに導いてくれます。先生という職業は、かなりの忍耐力、アイデア、創造力と体力が必要だと感じています。

くさん作って販売しました。そして、その稼いだ資金で村の青年たちと、母の日のお祭りを主催しました。私たちは精一杯頑張りましたが、それでも青年グループと活動を継続していくためには、まだ力不足でした。

私はいつもジューヴァ（村の友人）と英語の言葉について話していました。私たちは、どうすれば私たち二人の英語力がもっと上手くなるかをたくさん考えました。そして、彼女と一緒に観光地であるカノアやエステーヴァン村の人達に、自分たちの英語教室に参加しないかと呼びかけました。私たちは、週に二回、青少年と大人を対象に授業を行いました。しかし、主にエステーヴァン村の住民向けに授業を始めたのですが、生徒の大多数がカノアの住民だったので、残念に思いました。また当初、生徒は二十人以上いたにも関わらず、活動の終わりの頃には九人に減ってしまい、残念でした。しかし、英語を教えることと、英語を話すことの大切さを伝えることはとても興味深かったです。「みなさんは、観光客や外国人が多い場所に住んでいるのだから、英語を覚える必要があるんですよ、ワールドカップもありますしね。」と。

私は音楽バンドに加わり、クラリネットを吹いていました。私が過ごしたこの一年間で、バンドは新しい先生、アトウーを迎え、再スタートしました。当初はもっと多くの人が参加し楽器を吹いていましたが、しばらくするとメンバーが減ってしまいました。最初に楽器の吹き方と音楽の理論を覚えなければならず、とても大変だったのです。しかし現在では、エステーヴァン村やカノアでいろいろな演奏ができるようになりましりました。そして、「Music for Canoa」というバンド名入りのTシャツも作りましりました。

また、ドイツでの私のプロジェクト（ドイツで不要な楽器を一般に募りこのバンドに寄贈する活動）も成功しました。今では以前よりも良い楽器がたくさん揃っていて、今後バンドが更に前進する可能性が高まりました。毎週金曜日と土曜日にみんなとクラリネットを吹いたり、メンバーを手伝ったりする事が本当に好きでした。

この一年間のことは決して忘れませんが、私がここで学んだのは、ポルトガル語だけでなく、もっともっと多くの事です。エステーヴァン村は私の新しい祖国です。みなさん、本当にありがとうございます。

ジューヴァと一緒に、他にもいろいろな事をしました。私たちは、エステーヴァン村コミュニティセンターで活動する青年グループの活動費を稼ぐため、ビンゴを何度も行いました。また、料理もた

この一年間のことは決して忘れませんが、私がここで学んだのは、ポルトガル語だけでなく、もっともっと多くの事です。エステーヴァン村は私の新しい祖国です。みなさん、本当にありがとうございます。



## 追記

この村で大の人気者だったアンジェリカ。このの住民同様にこの豊かな自然を愛し、村の事を思い、村の住民にとっで忘れられないボランティアの一人となりました。

教室やコミュニティセンターで積極的に授業を行い、音楽活動に励み、新しい風を吹き込んでくれた彼女の貢献は大変大きいものでした。帰国したドイツで、この経験を活かし、今まで以上に豊かな人生を歩んでいってほしいとみんなが願っています。

（翻訳・追記：真野由紀）

## ありがとうございます!!!

平成 22 年 11 月 12 日～平成 23 年 9 月 6 日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけたら嬉しいです。目標会員 100 名!!

### \*会費及び寄付を頂きました皆様 (以下順不同)

安孫子季久代さま / 太田朋子さま / 大谷タカコさま / 大塚崇志・晶さま / 大場富美香さま / 小川千鶴子さま / 梶沼大さま / 金本りせ子さま / 川田真弓さま / 神田昌実さま / 桑山寛子さま / 合志茜さま / 小林美香さま / 諏訪田あつ子さま / 高橋友子さま / 高橋美智さま / 藤本くみさま / 堀池眞輔さま / 堀池ミツ子さま / 松丸綾乃さま / 横浜シュタイナー子どもの園を育てる会さま / 吉田可南子さま / 義村翼さま / 和井田なみさま

### \*物資支援を頂きました皆様 (以下順不同)

桑山寛子さま / 谷村祥子さま / 横浜市立栗田谷中学校の皆さま / Maresia

## 「学資支援」のお願い

ブラジルでは現在、「子どもと直接かかわる職業の人はすべて、大学の教育学部に通学もしくは卒業していること」ということで、私たちの現地スタッフの内 2 名 (フラビアーニとパトリッシア) が見事市内の大学の教育学部に合格し、この 2 月より通学しています。

\* 私立のため一人当たり:

授業料 (月謝) + 交通費 + 教材費 = 約 18,000 円 (R\$300.00)

その半分を支援していこうというプロジェクトです。そのため現在、毎月約 18,000 円 (二人分) を学資支援しています。支援方法は、会員の支払い方法と同じです。(最後のページ参照) 但し、コメント欄に「学資支援」と書いていただけますよう、お願いいたします。

## 雑誌 めたもるふおーぜ

カノアでの活動や生活を通して、皆さんと共に学びあうことができるのではないだろうか? そんな思いから、現在雑誌「めたもるふおーぜ」にカノアの活動のこと、日常生活で感じたことなどを連載しています。ご興味のある方はぜひご覧下さい。

〒 520-2271 滋賀県大津市稲津 2-15-6 (黒川方)

tel / fax : 077-546-4147

e-mail : metamor4se@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/metamoru4se/

## 会員募集

「光の子どもたちの会」では、会員、協力会員を募集しています。支える会では「手工芸品の販売」「講演会」などにより多少の収入がありますが、充分な額ではありません。会の運営は全てボランティアにより運営されています。1 人でも多くの方々に会員、協力会員になっていただき、この会を支えていただきたいのです。頂きました会員費、協力会員費及び寄附などは、支える会の活動費、運営費となります。会員の方々には年 2 回の会報、講演会や、イベントなどのお知らせを、ブラジル事務局よりお送りいたします。

一般会員 : 年会費 5,000 円

協力会員 : 年会費 1 口 36,000 円以上任意額

\* 随時寄付やカンパも受け付けております。

\* たったの 100 円でお米 1 kg を買うことができ、子ども一人当たりの保育料に毎月 3,000 円が掛かっています。(活動はすべて無償で行われています)

### ■ 郵便振替

口座番号 : 00280-1-41787

加入者名 : 光の子どもたちーカノアの活動を支える会

### ■ ブラジル銀行 (Banco do Brasil) 口座

Agencia 0121-x

Conta Corrente 26357-5

Associacao Crianças de LUZ

## ボランティアの皆さん、どうもありがとうございました!!

(以下 2011 年 3 月より現在まで)

2010/8/30 - 2011/8/27	Angelika Fraytag	ドイツ人、保育園助手、音楽プロジェクトサポート
2011/5/24 - 現在	根村俊哉	学童教室助手、英語教室、日本文化教室実施
2011/7/22 - 2011/8/23	Paul David Heckhaudrn	ドイツ人、音楽プロジェクトサポート
2011/7/26 - 現在	真野由紀	JICA 日系青年ボランティア、保育園助手、日本文化教室実施他